

増井研磨工業所

ただ1つの品を磨く町工場、 航空宇宙分野にも照準

納期相談
オンライン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット



増井義仁代表自らが、バフ研磨職人として金属部品を磨き上げる

業務内容 職人3名で 何でも磨く町工場

「増井研磨工業所」は、研磨歴約30年の増井義仁代表と、30年以上の経歴をもつ職人の2名で、どんな依頼もこなす町工場。円盤状の研磨材で磨く「バフ研磨」を得意とし、ステンレスやアルミニウム、チタン製の製品を手がける。表面を鏡のように美しく仕上げる目的のほか、寸法精度を高めるためにバフ研磨を依頼される。

家具部品や自動車用タイヤのレンチ、半導体製造装置の精密部品まで同社が扱う分野は多種多様で、品目数は毎月約1,000種に上る。最近では理容室向けのいす部品などの受注が増えている。個人からの依頼でバイクのマフラーなどを研磨するといった仕事も引き受ける。

強み 世界でただ1つの 美術品を磨く

「他社が断るような、ややこしい仕事をこなせるのが強みではないか」。増井代表はそう分析する。熟練者3人体制の町工場であるがゆえに仕事の規模は限られるものの、試作品のように1個単位で、しかも形状が複雑なものを磨いてほしいという依頼にこたえてきた。その真骨頂が、河井寛次郎記念館（京都市東山区）から依頼を受けた美術品の研磨だ。世界でただ1つの作品であり、絶対に失敗が許されない。量産品ではないため、標準化された条件のようなものは存在しない。過去の経験に裏打ちされた、研磨材や研磨条件の最適な選定が求められる仕事だ。

高度 技術 ロケット部品用の 依頼届く

平成28年にある依頼が舞い込んできた。



河井寛次郎作品（アルミ鋳造像、右が研磨後）



町工場が集積する大阪市平野区に立地する

それはロケットに搭載される円筒形の部品だという。正方形のステンレスの金属塊を切削加工で削り出したパイプ。その内側を研磨できないか依頼された。これもたった1個の仕事であるうえ、材料ロスが許されない、失敗できない仕事だった。

研磨を仕上げて依頼主に渡した後、ロケット開発を手がける企業の研究部門の所長クラスの人が同社を訪ね、その研磨技術に感銘を受けたという。増井代表にとっても自信を深める契機となった。

今後の展望 来たれ、未来の磨き職人

平成28年に依頼されたロケット部品試作の実績を受け、今後も航空宇宙分野の仕事を増やしていくのが目標だ。ハードルは高いが、同社の強みが生きる分野の1つだからだ。

同時に、後継者を含めた人材獲得の検討も始めている。複雑形状の金属製品研磨などは、経験が必要な面もあるが、ベテランは癖が染みついていてある場合もある。そこで「30歳以下の若い人材を採用し、3年程度かけて育て上げていければ」と増井代表は考えている。世界でただ1つの美術品を磨くなど同社ならではの仕事を望む人材が見つかればと期待する。

当社の歴史



当社は昭和30年に創業し、私で3代目となります。当時はミシン用ボビンを研磨していました。いす部品から半導体製造装置の部品まで、多くの分野を手がけていますが、最近では美術品や航空宇宙分野の試作品研磨など「絶対に失敗できない」仕事を手がけるなど、事業を高度化しつつあります。

代表 増井 義仁さん

<http://masuikenma.sakura.ne.jp/>

主な事業内容
金属表面処理、バフ研磨加工

主な取引先(納入先)
タカラベルモント(株)、
(株) 空研、(株) フジキン

●住所 〒547-0001
大阪市平野区
加美北9-9-17
●TEL 06-6793-1145
●FAX 06-6793-1137
●創業 昭和30年4月
●設立 昭和30年4月
●資本金 200万円
●従業員 3名